

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1 医薬品の本質に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品が人体に及ぼす作用はほぼ解明されており、用法用量を守れば期待される有益な効果（薬効）のみをもたらす。
- b 医薬品は生命関連製品であり、その有用性が認められたものである。
- c 殺虫剤は、人体に対して使用されないため、医薬品に分類されるものはない。
- d 添付文書や製品表示は、医薬品における効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者等が医薬品を適正に使用するために作成されている。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問2 医薬品の本質に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、市販後にも、その有効性、安全性等について確認が行われ、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直しや承認基準の見直し等がなされる。
- b 製造販売業者により、製品の回収等の措置が行われることはない。
- c 医薬品は、人の生命や健康に密接に関連するものであるため、その品質の均一性について、高い水準で保証されていなければならない。
- d 医薬品に異物等の混入や変質等があっても、健康被害が発生しなければ、製造販売業者に責任はない。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問3 医薬品のリスク評価に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a LD₅₀とは、動物実験における最小致死量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。
- b GLPは、ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準として制定されたものである。
- c 少量の医薬品の投与でも、発がん作用、胎児毒性や組織・臓器の機能不全を生じる場合がある。
- d 食品は、食中毒などの発生リスクがあるため、医薬品と同等の安全性基準が要求されている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	正	正

問4 健康食品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 健康増進や維持の助けとなる食品は、一般的に「健康食品」と呼ばれ、広く使用されている。
- b 食品は、身体構造や機能に影響する効果を表示することはできないが、例外的に特定保健用食品については、「栄養機能の表示」ができる。
- c カプセルや錠剤の形状をした食品は、医薬品と間違えやすいため、発売されていない。
- d 医薬品を扱う者は、いわゆる健康食品は法的にも、また、安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品と同じものであることを認識しなければならない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問5 医薬品の副作用に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。

世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の（ a ）、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に（ b ）で発現する医薬品の（ c ）反応」とされている。

下欄

	a	b	c
1	予防	通常用いられる量	有害かつ意図しない
2	撲滅	用いられる最小量	有害かつ意図しない
3	予防	用いられる最小量	科学的根拠のある副
4	撲滅	通常用いられる量	科学的根拠のある副
5	予防	通常用いられる量	科学的根拠のある副

問6 医薬品の副作用に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 期待される有益な反応（主作用）以外の反応が現れた場合でも、特段の不都合を生じないものであれば、通常、副作用として取り扱われることはない。
- b 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用が、その疾病に対して薬効をもたらす場合は、別の疾病の症状を悪化させることはない。
- c アレルギーは、医薬品の薬理作用等とは関係なく起こり得るものであり、また、内服薬だけでなく外用薬等でも引き起こされることがある。
- d アレルギーは、医薬品の使用により発症することはあるが、病気等による体調の変化が、医薬品によるアレルギーの発症に影響することはない。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問7 一般用医薬品の副作用について、販売等に従事する専門家の対応に関する次の記述のうち、適切でないものを1つ選びなさい。

- 1 副作用の生じた使用者から副作用の発生の経過を十分に聴いて、その後の適切な医薬品の選択に役立つ情報提供を行った。
- 2 副作用が起きる仕組みや起こしやすい要因の認識、また、それらに影響を与える体質や体調等をあらかじめ把握していた。
- 3 使用者に重大な副作用の兆候がみられたが、疾病の症状がまだ改善していなかったため、そのまま服用を続けるように指示した。
- 4 使用者に、特段の異常が感じられなくても、継続して使用する場合は、定期的に検診を受けるよう促した。

問8 一般用医薬品の使用に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品は、例外なく小児にも使用できるように設定されている。
- b 不適切な医薬品の使用や、それに起因する有害事象の発生の防止を図るために、医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者等に対して、正しい情報を適切に伝えていくことが重要となる。
- c 医薬品は、その目的とする効果に対して使用する量や使い方が定められているが、副作用が生じる危険性は考慮されていないため、十分注意する必要がある。
- d 一般用医薬品にも習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあり、そうした医薬品がしばしば乱用されることが知られている。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問9 医薬品の相互作用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 相互作用は、医薬品と食品の組合せでは起こらない。
- b 相互作用を回避するために、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、相互作用を生じるおそれのある医薬品の摂取を控えなければならないのが通常である。
- c 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれの医薬品を使用している場合が多く、医薬品の相互作用に関して特に注意が必要となる。
- d 相互作用には、医薬品が吸収、代謝、分布又は排泄される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問10 小児の医薬品使用に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- 2 小児は、血液脳関門が未発達であるため、吸収された医薬品の成分が脳に達しやすく、中枢神経系に影響を与える医薬品で副作用を起こしやすい。
- 3 小児の用法用量が設定されていない医薬品を小児に服用させる場合は、成人の量の3分の1を目安とする。
- 4 小児は、大人と比べて医薬品成分の代謝・排泄が速やかになされるため、医薬品の作用が弱くなることもある。

**問 11 小児の医薬品使用に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から
選びなさい。**

- a 乳幼児が誤って薬を大量に飲み込んだ、又は目に入れてしまったなどの誤飲・
誤用事故の場合には、通常の使用状況から著しく異なるため、想定しがたい事態
につながるおそれがある。
- b 乳児は医薬品の影響を受けやすく、また、状態が急変しやすく、一般用医薬品
の使用の適否が見極めにくいいため、基本的には医師の診療を受けることが優先さ
れる。
- c 5歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品では、服用時に喉
につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。
- d 家庭内の医薬品の保管場所については、いつでも取り出せるよう、小児が容易
に手に取れる場所や、小児の目につく場所とすることが適切である。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	正	誤

問 12 高齢者の医薬品使用に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 高齢者の基礎体力や生理機能の衰えの度合いは、年齢のみで推測することができる。
- b 高齢者は、持病（基礎疾患）を抱えていることが多いが、一般用医薬品の使用が、治療の妨げとなることはない。
- c 生理機能の衰えや医薬品の副作用で口渇を生じた場合に、誤嚥（食べ物等が誤って気管に入り込むこと）を誘発しやすくなる。
- d 一般用医薬品の用法用量は、ある程度の個人差を織り込んで設定されているため、高齢者の場合でも、基本的には、定められた用量の範囲内で使用されることが望ましい。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, d) 3 (b, c) 4 (c, d)

問 13 薬害の歴史に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 サリドマイド訴訟により、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創立された。
- 2 サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。
- 3 HIV訴訟により、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて感染症報告の義務づけ等を内容とする改正薬事法が1996年に成立した。
- 4 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、薬害事件の歴史を十分に理解し、医薬品の副作用等による健康被害の拡大防止に関して、医薬品の情報提供、副作用報告等を通じて、その責務の一端を担っていることを肝に銘じておく必要がある。

問 14 妊婦及び妊娠していると思われる女性又は母乳を与える女性（授乳婦）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 妊婦が医薬品を使用した場合、血液－胎盤関門により、胎児への医薬品成分の移行を全て防ぐことができる。
- b ビタミンA含有製剤は妊娠前後の一定期間に通常の用量を超えて摂取すると、胎児に先天異常を起こす危険性が高まるとされている。
- c 乳汁を介して乳幼児に好ましくない影響を及ぼすことが知られる医薬品については、授乳期間中の使用を避けるか、使用後しばらくの間は授乳を避けるよう、医薬品の販売等に従事する専門家から授乳婦へ、積極的に情報提供する必要がある。
- d 妊娠の有無やその可能性については、購入者側にとって他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等において専門家が情報提供や相談対応を行う際には、十分に配慮することが必要である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 15 次の薬害訴訟とその訴訟に関連する語句の関係について、誤っているものを1つ選びなさい。

(薬害訴訟)	(関連語句)
1 サリドマイド訴訟	－ 四肢欠損、感覚器や心肺機能の障害等の先天異常
2 スモン訴訟	－ 催眠鎮静剤、水俣病に類似した症状
3 HIV訴訟	－ 血友病患者への血液凝固因子製剤の投与
4 CJD訴訟	－ プリオンに汚染されたヒト乾燥硬膜の使用

問 16 医薬品の品質に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品は、高温や多湿、光（紫外線）等によって品質の劣化を起しやす多いものが多い。
- b 医薬品は、適切な保管・陳列がなされたとしても、経時変化による品質の劣化は避けられない。
- c 一般用医薬品は、薬局又は店舗販売業において購入された後、すぐに使用されるとは限らないことから、使用期限から十分な余裕をもって販売されることが重要である。
- d 医薬品の外箱等に表示されている「使用期限」は、未開封状態で適切に保管された場合に品質が保持される期限である。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	正	誤	誤	誤
5	正	正	誤	正

問 17 一般用医薬品に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。

一般用医薬品は、法において「医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が (a) であって、(b) その他の医薬関係者から提供された情報に基づく需要者の選択により使用されることが目的とされているもの ((c) を除く。) 」と定義されている。

下欄

	a	b	c
1	著しくないもの	薬剤師	要指導医薬品
2	緩和でないもの	薬剤師	医療用医薬品
3	著しくないもの	登録販売者	要指導医薬品
4	緩和でないもの	登録販売者	医療用医薬品
5	著しくないもの	登録販売者	医療用医薬品

問 18 一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 医薬品の販売に従事する専門家は、購入者等が適切な医薬品を選択して、適正に使用できるよう、働きかけていくことが重要である。
- b 登録販売者は、第一類医薬品、第二類医薬品及び第三類医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、生活者のセルフメディケーションを支援するという姿勢で臨むことが基本となる。
- c 医薬品の販売に従事する専門家からの情報提供は、説明内容が購入者等にどう理解されたかなどの実情を把握しながら行う必要はなく、専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけで十分である。
- d 情報提供を受けた当人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。

下欄

- 1 (a , b) 2 (a , d) 3 (b , c) 4 (c , d)

問 19 適切な医薬品選択と受診勧奨に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a セルフメディケーションの主役は、一般の生活者である。
- b 症状が重いときに、一般用医薬品を使用することは、適切な対処とはいえない。
- c 体調の不調や軽度の症状等について一般用医薬品を使用して対処した場合、一定期間使用しても症状の改善がみられないときには、医師の診療を受ける必要がある。
- d 一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、購入者等に対して常に科学的な根拠に基づいた正確な情報提供を行うべきである。

下欄

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	正	正	正	誤
5	正	正	誤	正

問 20 一般用医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者から確認しておきたい基本的なポイントに関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a その医薬品を使用する人が、医療機関で治療を受けていないか確認する。
- b その医薬品を使用する人として、小児や高齢者、妊婦等が想定されるか確認する。
- c その医薬品を使用するのは情報提供を受けている本人かどうかは、確認する必要はない。
- d その医薬品を使用する人が、過去にアレルギー歴があるかどうかは、医薬品の効果に影響がないため、確認する必要はない。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問 21 解熱鎮痛薬に配合される次の成分のうち、一般用医薬品において、15 歳未満の小児に対して、いかなる場合も使用してはならないものの正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a サザピリン
- b イソプロピルアンチピリン
- c イブプロフェン
- d アセトアミノフェン

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 22 グリチルリチン酸に関する次の記述について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 グリチルリチン酸を大量に摂取すると、偽アルドステロン症を生じるおそれがある。
- 2 どのような人が対象であっても、1日最大服用量がグリチルリチン酸として20 mg以上となる製品は、長期連用を避けることとされている。
- 3 医薬品では、グリチルリチン酸としての1日摂取量が400 mgを超えないよう用量が定められている。
- 4 グリチルリチン酸を含む生薬成分として、マオウが配合されている医薬品がある。

問 23 下表の成分を含むかぜ薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選
びなさい。

1 回量 1 包中		
アンブロキシソール塩酸塩	15 mg	
L-カルボシステイン	250 mg	
ジヒドロコデインリン酸塩	8 mg	
アセトアミノフェン	300 mg	
クロルフェニラミンマレイン酸塩		2.5 mg
リボフラビン	4 mg	

- 1 L-カルボシステインは、中枢作用によって鎮咳をもたらす。
- 2 アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- 3 クロルフェニラミンマレイン酸塩は、くしゃみや鼻汁を抑えることを目的に配合されている。
- 4 リボフラビンは、かぜの時に消耗しやすいビタミンの補給を目的に配合されている。

問 24 次のうち、去痰作用を期待して鎮咳去痰薬に配合される生薬成分として、誤っ
ているものを1つ選びなさい。

- 1 ゴオウ
- 2 シャゼンソウ
- 3 オウヒ
- 4 セキサン
- 5 オンジ

問 25 眠気を促す薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a ブロモバレリル尿素等の鎮静成分を大量摂取したときの応急処置等は、高度な専門的判断を必要とする。
- b 生薬成分のみからなる鎮静薬については、飲酒を避けることとはなっておらず、アルコールによって医薬品の効果が妨げられることはない。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人を対象とするものである。
- d 神経の興奮・緊張緩和を期待して、ホップが配合されている医薬品がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 26 胃の薬に関して、その薬を使用する前に、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべき病気と配合成分の組合せとして誤っているものを1つ選びなさい。

	(病気)	(配合成分)
1	腎臓病	— アルジオキサ
2	腎臓病	— スクラルファート
3	肝臓病	— ソファルコン
4	緑内障	— セトラキサート塩酸塩
5	緑内障	— ピレンゼピン塩酸塩

問 27 カフェインに関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a カフェインの眠気防止に関連しない作用として、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収抑制があり、利尿をもたらす。
- b 安全使用の観点から、カフェインの留意すべき作用として、胃液の分泌を抑える作用がある。
- c 乳児は肝臓が未発達なため、カフェインの代謝には、より多くの時間を要する。
- d 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして200 mg、1日摂取量は600 mgが上限とされている。

下欄

- 1 (a, b) 2 (b, d) 3 (a, c) 4 (c, d)

問 28 ヨードチンキに関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。なお、2つの(c)内には同じ字句が入ります。

ヨウ素及びヨウ化(a)を(b)に溶解させたもので、(c)液と混ぜると不溶性沈殿を生じて殺菌作用が低下するため、(c)液と同時に使用しないこととされている。

下欄

	a	b	c
1	ナトリウム	フェノール	マーキュロクロム
2	カリウム	エタノール	レゾルシン
3	カルシウム	エタノール	レゾルシン
4	カリウム	エタノール	マーキュロクロム
5	カルシウム	フェノール	レゾルシン

問 29 みずむし薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a クロトリマゾールは、イミダゾール系抗真菌成分である。
- b 一般的に、皮膚が厚く角質化している部分には、軟膏が適している。
- c ピロールニトリンは、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。
- d 湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 30 下表の成分を含む鎮痛薬（乗物酔い防止薬）に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

1 回量 1 カプセル中		
マレイン酸フェニラミン	15 mg	
スコポラミン臭化水素酸塩水和物		0.1 mg
ピリドキシン塩酸塩	2.5 mg	
アミノ安息香酸エチル	25 mg	
無水カフェイン	10 mg	

- a スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、抗ヒスタミン成分である。
- b ピリドキシン塩酸塩は、消耗したビタミンB12の補給を目的に配合されている。
- c アミノ安息香酸エチルが配合されているので、6歳未満への使用は避ける必要がある。
- d 無水カフェインは、めまいを軽減させることを目的に配合されている。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 31 下表の成分を含む胃腸薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

1 回服用量中

トリメブチンマレイン酸塩 (TM)	300 mg
ビオチアスターゼ 2000	120 mg
リパーゼ AP 6	45 mg
カンゾウ末	150 mg
ロートエキス	30 mg
炭酸水素ナトリウム	300 mg
沈降炭酸カルシウム	600 mg

- 1 カンゾウは、一般食品等にも広く用いられており、摂取量が継続して多くならないよう注意を促すことが重要である。
- 2 ロートエキスは、抗コリン作用を示すアルカロイドを豊富に含む生薬成分である。
- 3 沈降炭酸カルシウムは、胃酸の中和作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされる。
- 4 この胃腸薬は、炭酸飲料での服用は適当でない。

問 32 ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 食あたりによる下痢の症状に用いられる。
- b 一般用医薬品では、15歳未満の小児には適用がない。
- c 胃腸鎮痛鎮痙薬と併用すると効果的である。
- d 2～3日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 33 肌の角質化、かさつき等を改善する成分を含む外皮用薬に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 いぼに用いる角質軟化薬は、医薬品としてのみ認められている。
- 2 角質軟化薬には、いぼの原因となるウイルスに対する抑制作用はない。
- 3 皮膚の乾燥を改善することを目的として、ヘパリン類似物質が用いられることがある。
- 4 サリチル酸は、皮膚の角質層を形成するケラチンを変質させることにより角質軟化作用を示す。

問 34 駆虫薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と条虫（いわゆるサナダ虫など）である。
- b 虫卵検査を受けて回虫の感染が確認された場合には、衣食を共にする家族全員の駆虫を図ることが基本となる。
- c 駆虫薬は、一度に多く服用しても駆虫効果が高まることはなく、かえって副作用が現れやすくなる。
- d 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すため、瀉下薬としてヒマシ油を併用することが効果的である。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 35 コレステロールと高コレステロール改善成分に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a コレステロールは、胆汁酸等の生理活性物質の産生に重要な物質である。
- b コレステロールの産生は、主として脾臓で行われる。
- c パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）産生を高める作用があるとされる。
- d ソイステロールには、腸管におけるコレステロールの吸収を促す働きがあるとされる。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 36 循環器用薬に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a ユビデカレノンには、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって血液循環の改善効果を示すとされている。
- b コウカは、ニコチン酸の働きによって末梢の血液循環の改善効果を示すとされている。
- c コエンザイムQ10を含有する一般用医薬品については、15歳未満の小児向けの製品はない。
- d ヘプロニカートは、ビタミンCと組み合わせて用いられることが多い。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 37 貧血用薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 銅はヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。
- b コバルトはビタミンB 6の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で配合されている。
- c ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つ目的で配合されている。
- d 鉄製剤を服用して便が黒くなった場合は、直ちに使用を中止する必要がある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 38 婦人薬に関して、次の漢方処方製剤のうち、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることが知られているものの正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 温清飲
- b 温経湯
- c 加味逍遙散
- d 四物湯

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 39 下表の成分を含む痔の薬（注入軟膏）に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

1 個（2 g）中	
プレドニゾン酢酸エステル	1 mg
リドカイン	60 mg
アラントイン	20 mg
トコフェロール酢酸エステル	50 mg

- a 上表のプレドニゾン酢酸エステルの含有量であれば、長期連用を避ける必要はない。
- b この薬は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- c アラントインは、痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して配合されている。
- d トコフェロール酢酸エステルは、肛門周囲の末梢血管を収縮させることによる止血効果を期待して配合されている。

下欄

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (a, d) 4 (c, d)

問 40 消毒薬の誤用・事故等による中毒への一般的な家庭における応急処置に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 誤って飲み込んだ場合、多量の牛乳などを飲ませる。
- 2 誤って目に入った場合、顔を横に向けて上から水を流して、流水で十分に洗眼する。
- 3 誤って皮膚に付着した場合、流水をかけながら着衣を取り、中和剤を用いて流水で皮膚を十分に水洗する。
- 4 誤って吸入した場合、意識がないときは、新鮮な空気の所へ運び出し、人工呼吸などをする。

問 41 内服アレルギー用薬に関する次の記述について、()に入れるべき字句の正しい組合せを下欄から選びなさい。なお、2つの(a)内には同じ字句が入ります。

鼻炎用内服薬は、(a)の働きを抑える作用を示す抗(a)成分を主体に、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる(b)作動成分及び鼻汁分泌やくしゃみを抑える抗(c)成分等を組み合わせて配合される。

下欄

	a	b	c
1	コリン	ヒスタミン	アドレナリン
2	ヒスタミン	アドレナリン	コリン
3	アドレナリン	コリン	ヒスタミン
4	コリン	アドレナリン	ヒスタミン
5	ヒスタミン	コリン	アドレナリン

問 42 かぜ薬に配合される次の成分のうち、依存性のあるものの正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a クロペラスチン塩酸塩
- b デキストロメトルファン臭化水素酸塩
- c ジヒドロコデインリン酸塩
- d メチルエフェドリン塩酸塩

下欄

- 1 (a , b) 2 (b , c) 3 (c , d) 4 (a , d)

問 43 下表の成分を含む鼻炎用点鼻薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

100mL 中		
クロモグリク酸ナトリウム	1,000 mg	
クロルフェニラミンマレイン酸塩	250 mg	
ナファゾリン塩酸塩	25 mg	

- a 過度に使用すると鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまりがひどくなりやすい。
- b クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示す。
- c ナファゾリン塩酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- d 副作用として、鼻出血や頭痛が現れることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 44 点眼薬に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 点眼薬 1 滴の薬液の量は約 $20\mu\text{L}$ のため、一度に数滴点眼するほうが効果が増す。
- b 点眼後は、数秒間、まぶたを閉じて、薬液を結膜囊内に行き渡らせるが、その際、目頭を押さえてはいけない。
- c コンタクトレンズをしたままの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。
- d 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。

下欄

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

問 45 眼科用薬に関する次の記述について、誤っているものを 1 つ選びなさい。

- 1 アセチルコリンは、水晶体の周りを囲んでいる毛様体に作用して、目の調節機能に関与している。
- 2 テトラヒドロゾリン塩酸塩は、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去する作用を期待して配合されている。
- 3 水溶性アズレンは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている。
- 4 スルファメトキサゾールは、真菌の感染による結膜炎やものもらい、眼瞼炎などの化膿性の症状の改善を期待して配合されている。

問 46 ステロイド性抗炎症成分を含む外皮用薬に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 末梢組織の免疫機能を亢進させることにより、感染による炎症を鎮めることを目的として用いられる。
- b 広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象とするものではない。
- c ステロイド性抗炎症成分をコルチゾンに換算して1 g 又は1 mL 中0.025 mgを超えて含有する製品の長期連用は避ける必要がある。
- d 当該成分として、ヒドロコルチゾン、フェルビナクなどがある。

下欄

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 47 一般的な創傷への対応に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 出血しているときは、創傷部に清潔なガーゼ等を当てて5分間程度は圧迫を続け、止血する。
- 2 水洗が不十分で創傷面の内部に汚れが残っていても、創傷表面を乾燥させるタイプの医薬品を使用すると、創傷面の内部で雑菌が増殖せず化膿しない。
- 3 熱傷の場合は、できるだけ早く、水道水などで熱傷部を冷やすことが重要である。
- 4 創傷部に殺菌消毒薬を繰り返し適用すると、かえって治癒しにくくなったり、状態を悪化させることがある。

問 48 皮膚に用いる薬のうち、痒み、腫れ、痛み等を抑える配合成分に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 クロルフェニラミンマレイン酸塩の副作用として、患部の腫れが現れることがある。
- 2 カンフルは、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張による患部の血行を促す効果を期待して配合される。
- 3 ノニル酸ワニルアミドを主薬とする貼付剤は、入浴1時間前には剥がすべきである。
- 4 ナファゾリン塩酸塩は、皮膚に温感刺激を与え、末梢血管を拡張させて患部の血行を促す効果を期待して配合される。

問 49 非ステロイド性抗炎症成分を含む外皮用薬に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a インドメタシンを含む貼付剤については、連続して1週間以上の使用は禁忌とされる。
- b インドメタシン含量1%の貼付剤では、15歳未満の小児向けの製品はない。
- c イブプロフェンピコノールは、外用での鎮痛作用はほとんど期待されない。
- d ケトプロフェンが配合された外皮用薬を使用している間は、塗布部をラップフィルムで覆うことが適当である。

下欄

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 50 歯槽膿漏薬の配合成分と配合目的の関係について、正しい組合せを下欄から選
びなさい。

(配合成分)	(配合目的)
a クロルヘキシジングルコン酸塩	— 歯周組織の炎症を和らげる
b グリチルリチン酸ニカリウム	— 歯肉溝での細菌の繁殖を抑える
c カルバゾクロム	— 炎症を起こした歯周組織からの出血を 抑える
d 銅クロロフィリンナトリウム	— 炎症を起こした歯周組織の修復を促す

下欄

1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 51 禁煙補助剤に関する次の記述について、誤っているものを1つ選
びなさい。

- 1 咀嚼剤は、噛むことにより口腔内でニコチンが放出され、口腔粘膜から吸収さ
れて循環血液中に移行する。
- 2 非喫煙者が使用しても、吐き気やめまい等の症状が現れることはない。
- 3 コーヒーを摂取した後しばらくは、使用を避けることとされている。
- 4 アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強さ
せるおそれがある。

問 52 滋養強壮保健薬の配合成分と配合目的の関係について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

(配合成分)	(配合目的)
a ヘスペリジン	— ビタミンCの吸収を助ける
b グルクロノラクトン	— 肝血流を促進する
c アミノエチルスルホン酸 (タウリン)	— 乳酸の分解を促す
d システイン	— 軟骨成分を形成及び修復する

下欄

1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 53 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- b 防風通聖散は、構成生薬として、カンゾウ、マオウ、ダイオウを含む。
- c 大柴胡湯は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの肥満症に適し、胃腸が弱く下痢しやすい人でも使用できる。
- d 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後6か月未満の乳児には使用しないこととされている。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問 54 鎮咳去痰薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a ハンゲは、中枢神経系に作用して咳を抑える生薬成分である。
- b ノスカピンは、交感神経系を刺激して気管支を拡張する成分である。
- c ジメモルファンリン酸塩は、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれる。
- d デキストロメトルファンフェノールフタリン塩は、主にトローチ剤に配合される。

下欄

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 55 生薬成分と薬用部位の関係について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

	(生薬成分)	(薬用部位)
a	サイコ	— 菌核
b	サイシン	— 根及び根茎
c	モクツウ	— 蔓性の茎
d	ブクリョウ	— 果実

下欄

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 56 殺虫成分と成分分類の関係について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

(殺虫成分)	(成分分類)
a フェンチオン	— ピレスロイド系殺虫成分
b フェノトリン	— 有機リン系殺虫成分
c プロポクスル	— カーバメイト系殺虫成分
d ピリプロキシフェン	— 昆虫成長阻害成分

下欄

1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 57 妊娠検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものであり、通常、実際に妊娠が成立してから6週目前後の尿中のhCG濃度を検出感度としている。
- b 尿中のhCGの検出反応は、温度の影響を受けない。
- c 検体としては、尿中のhCGが検出されやすい起床直後の尿が向いているが、尿が濃すぎると、かえって正確な結果が得られないこともある。
- d 糖尿病の場合、擬陽性を示すことがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 58 かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述について、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 半夏厚朴湯は、構成生薬としてカンゾウを含む。
- 2 葛根湯は、構成生薬としてマオウを含む。
- 3 体の虚弱な人は、麻黄湯の使用を避ける必要がある。
- 4 インターフェロン製剤で治療を受けている人は、小柴胡湯の使用を避ける必要がある。

問 59 強心薬に関する次の記述について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a 心筋に作用して、その収縮力を高めるとされる成分が主体として配合される。
- b 1日用量中センソ2mgを超えて含有する医薬品は、劇薬に指定されている。
- c シンジュは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。
- d 一般に、5～6日間使用して症状の改善がみられない場合には、心臓以外の疾患も考えられる。

下欄

- 1 (a, b) 2 (b, c) 3 (c, d) 4 (a, d)

問 60 浣腸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せを下欄から選びなさい。

- a グリセリンは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。
- b グリセリンが配合された浣腸薬では、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れるとの報告がある。
- c 炭酸水素ナトリウムは、直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 炭酸水素ナトリウムを主薬とする坐剤では、まれに重篤な副作用としてショックを生じることがある。

下欄

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	誤